

第41回（2025年度）マツダ財団研究助成一覧 – 青少年健全育成関係 –

分野	研究題目および研究概要	研究代表者	所属	役職 (応募時)	研究 期間 (年)	助成 金額 (万円)	地域
地域 連帯、 コミュ ニティ づくり	大学生が主体的に活躍する地域づくりのエコシステム形成に関する研究	天野 浩史	静岡大学	特任 准教授	2	65	静岡県
	本研究は、地域社会から地域づくりへの参加を期待される大学生が、地域社会と良好な関係を創出し、心豊かに持ち味が発揮される地域づくりを目指して、地域づくりのエコシステム形成と大学生の成長の関係を明らかにすることを目的とする。具体的には、エコシステム論の理論的整理、先進事例調査、静岡市駿河区大谷地区におけるアクションリサーチに取り組み、大学生と地域社会がどのように相互作用しながら地域づくりのエコシステムを形成するのかを明らかにする。						
ボラン ティア 育成	聴覚障害学生支援のための大学ノートテイク学生共同養成・研修プログラム作成と研修実践による効果検証	下中村 武	岡山大学	助教	2	85	岡山県
	聴覚障害学生が授業で学ぶ際、音声情報を文字情報として伝える「ノートテイク」支援が有効であるとされる。ノートテイクを行う「ノートテイク」養成には、各大学で研修講師や予算の確保を要するが、いずれの確保も困難な状況にある。本研究では、①いかなる環境下においても、ノートテイク学生養成が可能となるオンデマンド動画を作成し、②オンデマンド動画を活用したノートテイク学生養成の効果検証を行う。最終的に、一定水準の技術を習得可能なノートテイク学生養成の方法を提示することを目的とする。						
地域 連帯、 コミュ ニティ づくり	超人口減少社会における子どもの意識・行動とキャリア形成をめぐる実証研究：次世代のウェルビーイングを実現する地域教育計画に向けて	長尾 悠里	弘前大学	助教	1	84	青森県
	本研究は、Society5.0を見すえ、超人口減少社会において、次世代のウェルビーイングを実現する地域社会と学校教育はいかにして可能かを問うものである。社会調査の方法により、青森県X町の子どもの意識と行動・キャリア形成の把握を軸とし、教育関係者・地域住民の教育制度等に対する意識についても実証的に解明する。X町の教育関係者と協働し、地域に根差した教育行政・教育計画の策定に資するエビデンスを提示するとともに、長期的な視点から次世代の学校・地域・社会を構想する上での示唆を引き出す。						
地域 連帯、 コミュ ニティ づくり	急性期医療で親を亡くした子どもへの支援モデルの構築ー地域とつながるグリーンサポートプログラムの展開ー	水上 喜美子	金沢大学附属病院	特任 助教	2	83	石川県
	救急・集中治療の現場では、親の急変や死別に直面した子どもへの支援が十分に行き届いていない。本研究では、親を亡くした子どもとその養育者を対象に、安心して悲しみを自由に表現できる「グリーンサポートプログラム」を地域で実施し、その有効性と課題、そして救急・集中治療領域における子どもを含めた家族支援のあり方について明らかにする。子どもの心の成長を支えるとともに、“かなしみ”を分かち合える文化的・社会的な居場所づくりをめざす。						
地域 連帯、 コミュ ニティ づくり	「いわての復興教育」における地域連携をととした愛郷心の育成に関する研究	小野寺 香	奈良女子大学	准教授	2	83	奈良県
	本研究の目的は、「いわての復興教育」に焦点をあて、地域連携をととした復興教育における愛郷心育成のありかたを明らかにすることである。「いわての復興教育」は、東日本大震災の教訓を伝えるだけでなく、地域を理解し、愛し、誇りを育むことを目的としている。本研究は、「いわての復興教育」を主に実践する小・中学校での調査を通して、その活動内容や教師等によるその解釈を明らかにし、愛郷心育成の意義を考察する。また、その実践のありかたを、他地域の学校教員等に伝える交流活動を行う。						
合計5件				助成金総額		400万円	